

証券コード：7472

“百年の信頼を未来につなげる”

2026年3月期 第1四半期 決算説明補足資料

2025年8月7日(木)
株式会社鳥羽洋行

I. 2026年3月期1Q決算について

II. 今後の戦略及び見通し

I.2026年3月期1Q決算について

I.2026年3月期1Q決算について



株式
会社

鳥羽洋行

<連結損益計算書の概要>

(単位：百万円)

	25/3月期 1Q	26/3月期 1Q	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	7,040	7,539	7.1%	国内外の売上が、前年を上回る 特に中国子会社が、好調に推移
営 業 利 益	291	416	42.9%	売上総利益が、前年比10.9%増 売上総利益率が、0.5ポイント改善
営 業 利 益 率	4.1%	5.5%	1.4P	
経 常 利 益	339	452	33.3%	
経 常 利 益 率	4.8%	6.0%	1.2P	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	229	319	39.3%	
四 半 期 純 利 益 率	3.3%	4.2%	0.9P	

Point!

- 生成AI等向けの高性能半導体の設備投資増加により、販売が好調に推移。
- 中国は景気低迷が継続しているものの、売り上げは好調に推移。

I.2026年3月期1Q決算について

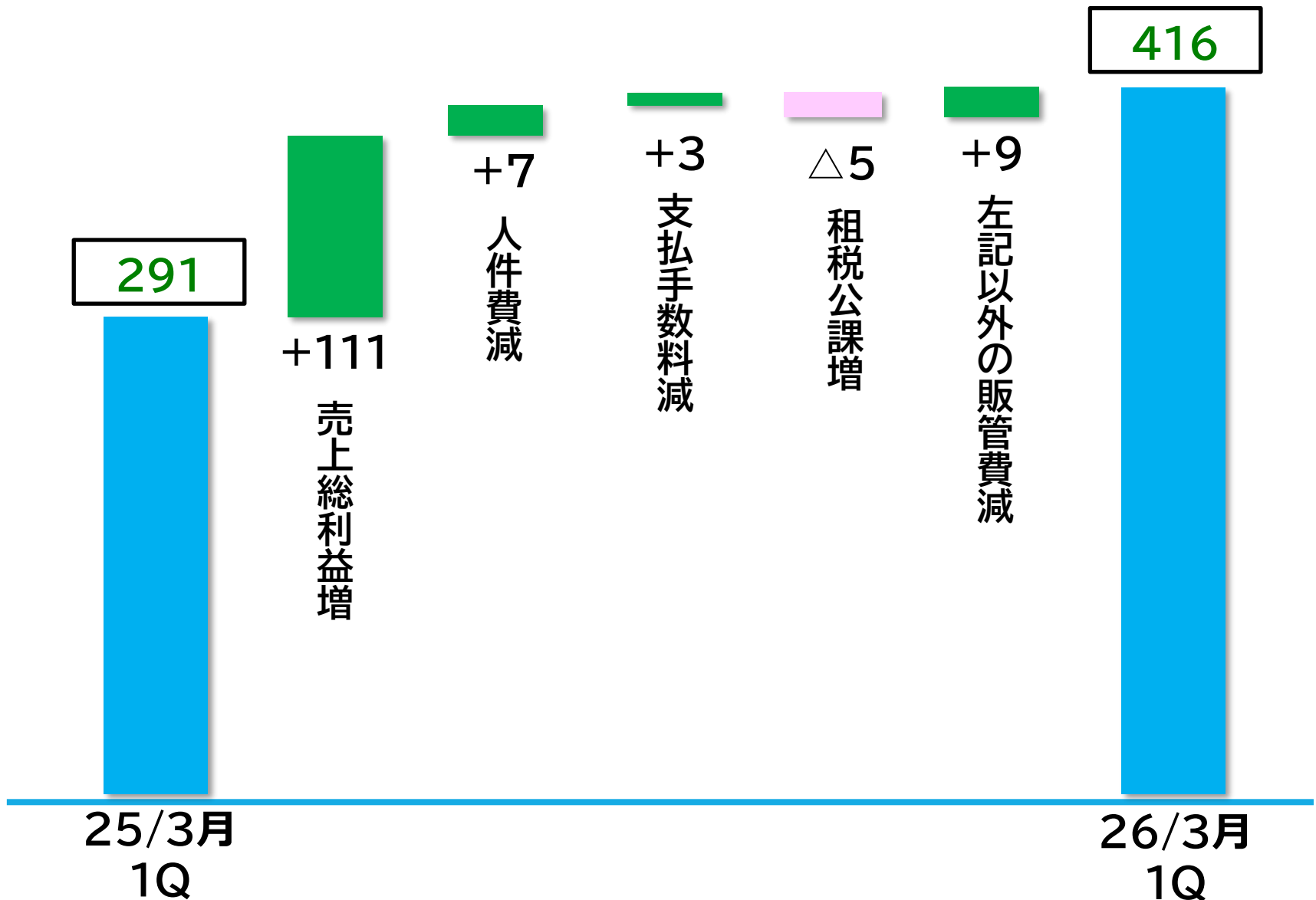


株式
会社

鳥羽洋行

(単位:百万円)

<連結営業利益増減分析>



I.2026年3月期1Q決算について

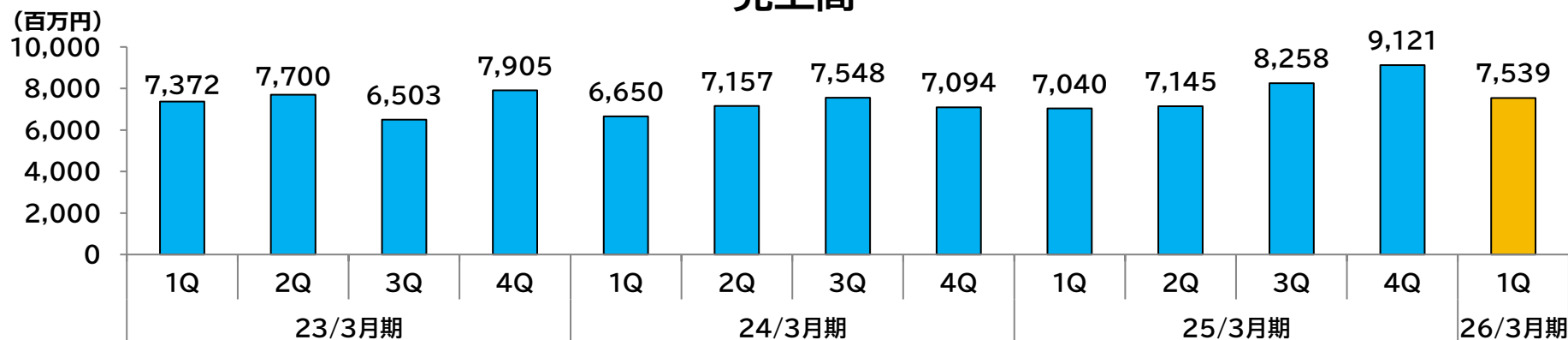


株式
会社

鳥羽洋行

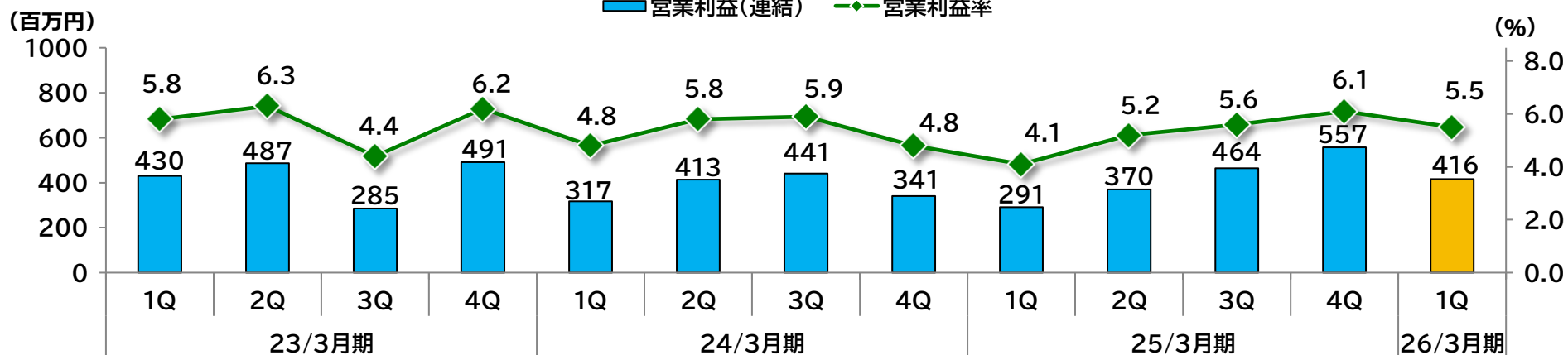
<四半期毎の連結売上高・連結営業利益の推移>

売上高



営業利益/営業利益率

■ 営業利益(連結) ◆ 営業利益率



Point!

- 前年同期比で、半導体製造装置関連および自動車・車載部品関連の販売が好調に推移し、販管費も減少したため、営業利益率は好水準を維持しました。

I.2026年3月期1Q決算について



株式
会社

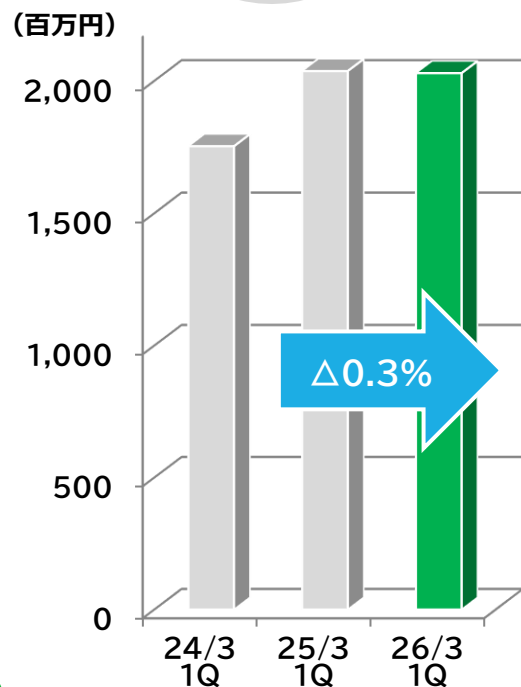
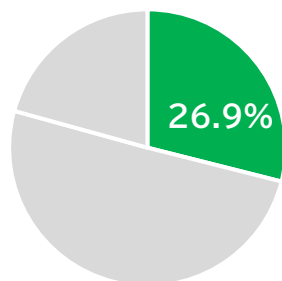
鳥羽洋行

<商品部門別実績>

制御機器

連結売上高

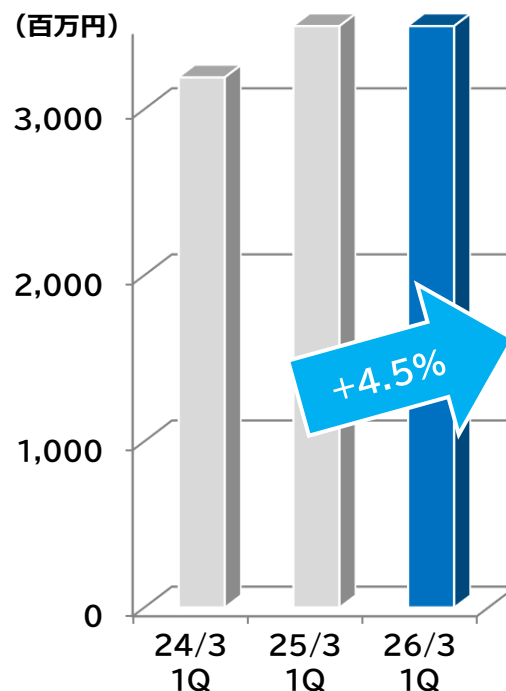
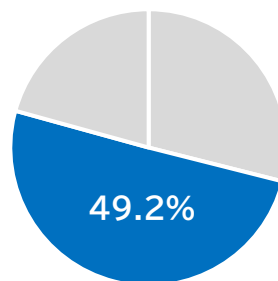
20億29百万円



FA機器

連結売上高

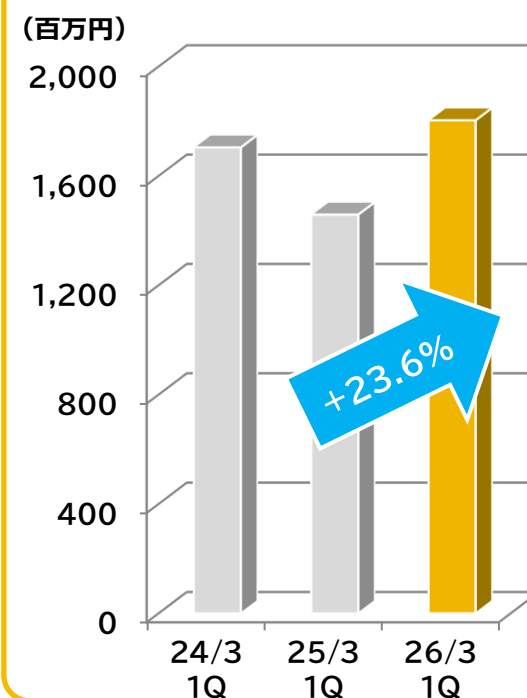
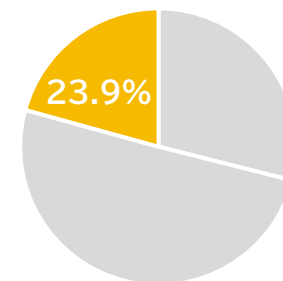
37億5百万円



産業機器

連結売上高

18億3百万円



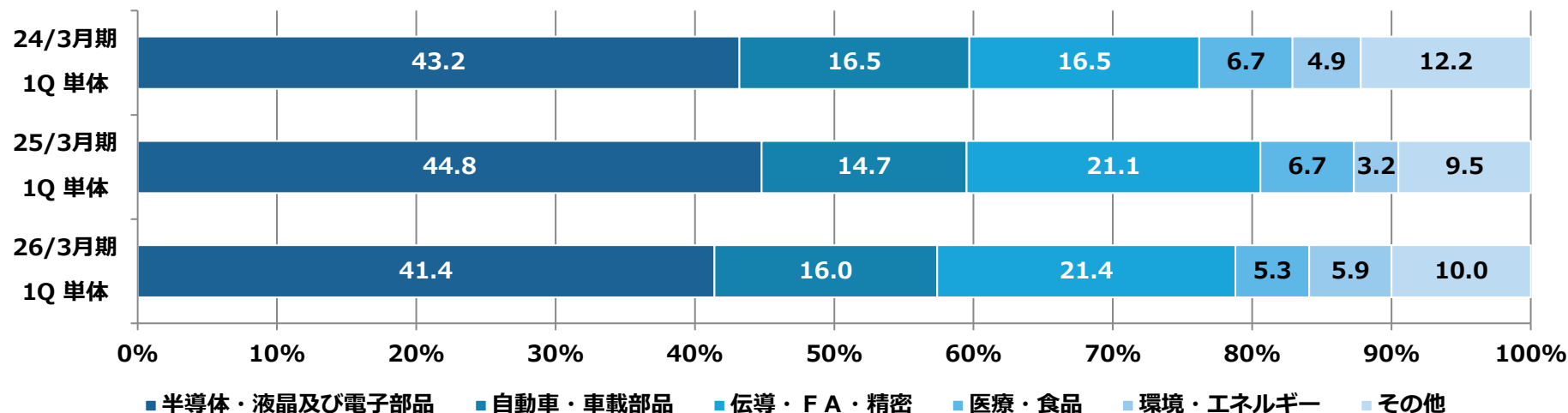
I.2026年3月期1Q決算について



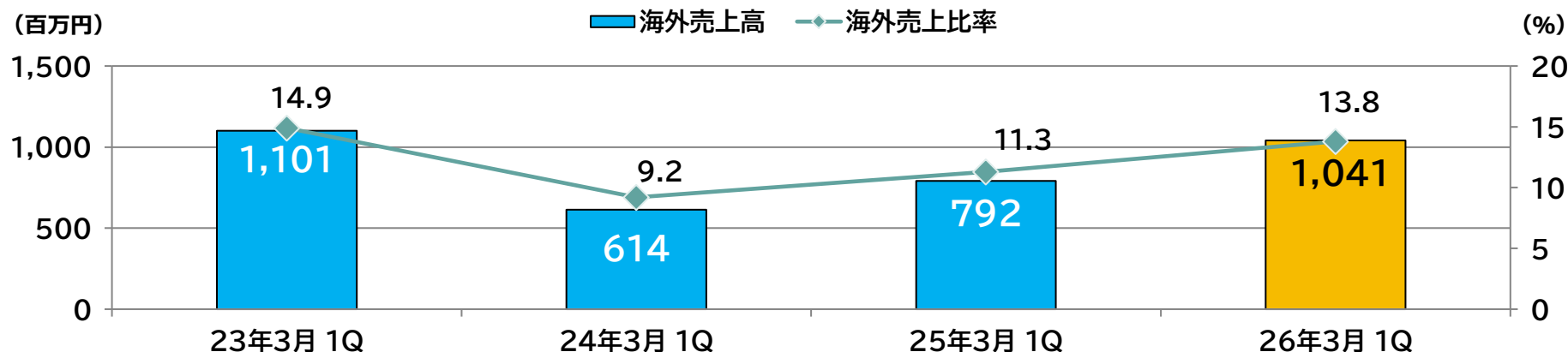
株式会社

鳥羽洋行

<業種別売上構成比(単体)推移>



<海外売上高・海外売上比率(連結)推移>



Point!

● 中国子会社においてFA機器の販売増。

I.2026年3月期1Q決算について



株式
会社

鳥羽洋行

<連結貸借対照表の概要>

(単位:百万円)

	25/3月末	構成比 (%)	25/6月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	23,284	75.8	21,755	74.6	
現金・預金	10,472	34.1	10,144	34.8	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	12,022	39.1	10,901	37.4	
商品	604	2.0	615	2.1	
固定資産	7,443	24.2	7,416	25.4	
資産合計	30,728	100.0	29,172	100.0	
流動負債	9,280	30.2	7,951	27.3	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	8,474	27.6	7,380	25.3	
固定負債	465	1.5	513	1.8	
負債合計	9,746	31.7	8,465	29.0	
純資産合計	20,982	68.3	20,707	71.0	
負債純資産合計	30,728	100.0	29,172	100.0	

Point!

● 構成比に大きな変化はございません。

Ⅱ. 今後の戦略及び見通し

<今後の市場環境>

◆ 半導体関連

生成AIの普及を背景としたデータセンター等への設備投資が堅調に推移し、高性能半導体に係る設備投資は底堅く推移する見込みではあるものの、自動車向けパワー半導体やメモリ半導体需要の回復時期が不透明。

◆ 自動車・車載部品業界

自動車の生産台数は、低迷していた2024年度から回復傾向に推移しているものの、米国の関税政策等の影響を受ける可能性あり。

◆ 自動化システム

生産現場における労働力不足を補う自動化システム案件は増加傾向にあり、ロボットやFA機器の販売は底堅く推移する見込み。

◆ 環境負荷低減商材

カーボンニュートラルに向けた取組みが拡大する中で、CO2排出量削減効果の高い商材の発掘、拡販により他社との差別化と企業価値の向上を目指す。

<2026年3月期の戦略 ～5つの柱～>

1 次世代の柱となるユーザーの新規開拓、育成

- ・積極的な展示会出展と来場者フォローによる新規顧客開拓
- ・自動車・車載部品及び半導体関連顧客への販売強化
- ・M&Aによるシナジーを活かした売上/利益の拡大

2 新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

- ・環境負荷や労働負荷を低減できる新たな商材の発掘
- ・カーボンニュートラルに向けたサプライヤーとの連携強化

3 装置ビジネスの更なる販売強化

- ・労働力不足を補う自動化機器とロボットの販売強化

4 技術商社としての存在価値強化 (ブランド強化)

- ・各種専門資格等の取得による提案型営業の推進

5 海外拠点との連携強化

- ・新規海外拠点の検討
- ・海外子会社への人材積極投入

<大型展示会へ出展>

2025年度の出展実績と予定

7月出展済：スマート工場内の搬送系お
よび協働ロボット利活用展

10月出展予定：関西機械要素技術展



<ロボット販売拡大>

協働ロボットや、小型～中型
産業用ロボット販売に注力



<各種自動化装置ビジネス>

生産性向上と労働力不足解消に
貢献



※当社はサステナビリティ委員会を運営しており、SDGsゴールの達成に向けた取組みを推進しております。

<2026年3月期の連結業績予想>

(単位:百万円)

	第76期 (2025年3月期) 実績	第77期 (2026年3月期) 計画	前期比 (増減率)
売上高	31,565	33,000	4.5%
営業利益	1,684	1,850	9.8%
営業利益率	5.3%	5.6%	0.3P
経常利益	1,812	1,950	7.6%
経常利益率	5.7%	5.9%	0.2P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,231	1,350	9.6%
当期純利益率	3.9%	4.1%	0.2P

<第5次 中期経営計画「Next Stage 2028」について>

経営理念を軸とし、中期経営計画を策定し、事業活動を通じて企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

(単位:百万円)

	第77期 (2026年3月期)	第78期 (2027年3月期)	第79期 (2028年3月期)
売上高	33,000	36,000	39,000
営業利益	1,850	2,150	2,400
経常利益	1,950	2,250	2,550
当期純利益	1,350	1,550	1,700

※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく、「ローリング方式」により中期経営計画を毎年度策定することとしております。

Point!

- 2025年5月9日、2026年3月期～2028年3月期の3ヶ年計画をリリース。
- 今期目標数値:売上高330億円達成に向けて進捗中。

Ⅱ. 今後の戦略及び見通し



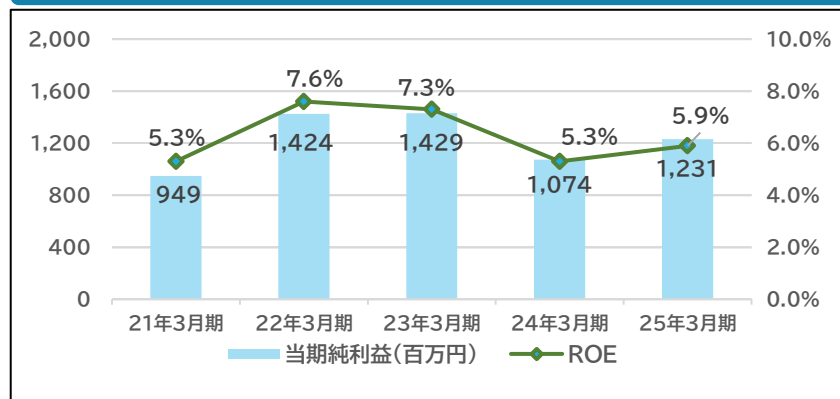
株式
会社

鳥羽洋行

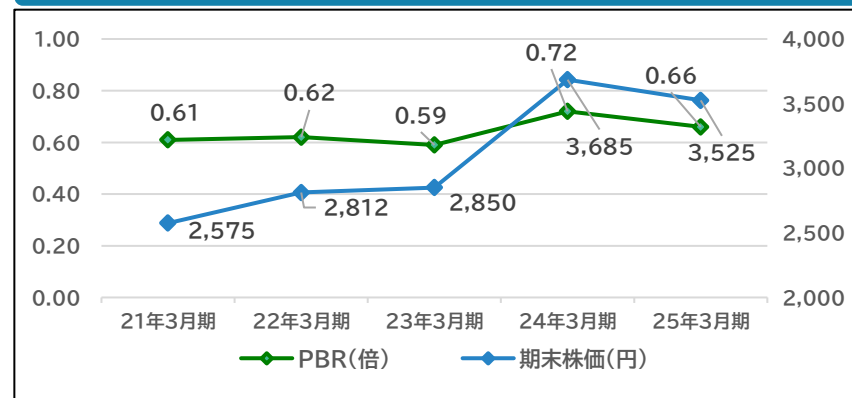
<経営指標目標の達成に向けた取組み>

～ 当社目標:ROE8.0%、PBR1.0倍以上 ～

ROEと営業利益の実績推移

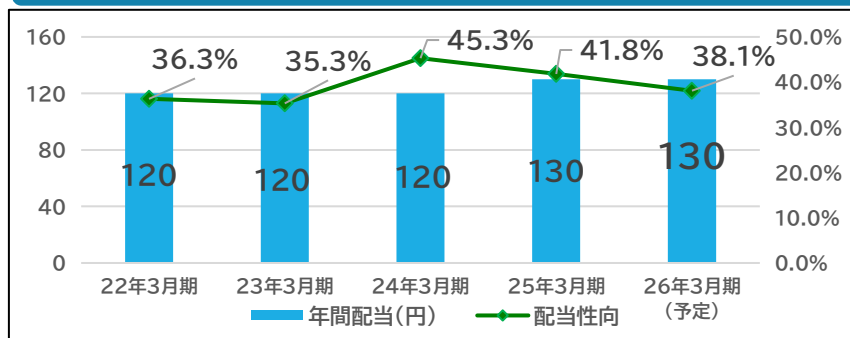


PBRと当社株価の実績推移



～ 株主還元について ～

配当金と配当性向の実績推移



<株主還元方針>

長期的、安定的な利益還元の実施を目標とし、連結配当性向を35%以上、一株当たりの配当金40円を下限とする。また、自己株式取得等の間接的な株主還元についても機動的に対応。

Point!

中期経営計画における事業拡大戦略の実行と業務効率化の推進による収益性の向上を目指します。人的資本への積極投資を行い、IR活動や非財務情報の適切な開示及び最適な株主還元(配当・自社株買い等)を実行し、株式市場からの評価を得ることで企業価値の向上を目指します。

この資料には、2025年8月7日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行
管理本部総務グループIR担当

住 所:〒112-0005
東京都文京区水道2丁目8番6号
電話番号:03-3944-4031
F A X :03-3944-4091
E メール :kanri-01@toba.co.jp